

平成25年度 公益財団法人日本宇宙少年団事業計画

1. 基本方針

(1) 財団運営について

平成25年度の財団運営にあたっては、公益財団法人移行の主旨をふまえ、将来にわたって継続的に公益法人としての使命を果たせるよう、運営体制等の抜本的な削減を行い経営基盤の立て直しを図る。

そのため、平成25年度の収支計画では、人件費の削減を含む大幅な管理運営費の削減を考えた計画としたうえで、持続可能となる活動ができる事務局体制や事務所の移転計画等を立案する。

(2) 財団事業について

実施事業の計画にあたっては、財団定款の目的を達成するため、宇宙・自然・交流をテーマとした以下の事業を実施する。

- ① 宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業
- ② 青少年の連携及び交流の促進事業
- ③ 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業
- ④ その他の事業

(3) 団員会費について

平成24年12月に開催された第3回公益財団法人日本宇宙少年団理事会において、団員の入会及び会費規程により団員会費の値上げが議決され、平成25年4月1日からの実施が承認された。これにより、平成25年4月1日の新規入団者より適用し、現在の団員一人当たりの初回登録料2,000円（変更なし）、年会費は2,400円から3,000円となり、新規入団の場合は合計5,000円を徴収する。

また、新たに家族団員の会員制度を設け、一人当たりの初回登録料はそれぞれ的人数分になり、年会費は登録家族全員で5,000円を徴収する。

2. 基本方針に基づく実施計画

(1) 管理運営費等大幅削減について

■ 管理費の削減

持続可能な財団運営をしていくために過度な定常的管理運営費（事務所維持運営費等）、事業規模に比べ大きな管理費（人件費等）の支出を抑えることが必須である。これまでの事務局職員の作業場所としているYAC事務所は、民間アパートの一室で家賃は他事務所家賃と比べるとはるかに安いことが利点ではあるものの、事務所として使用するための機器のリース代やメンテナンス代、共益費等、管理運営に係わる費用が多く掛かり収支バランスが取れない状況となっている。そのため、大幅な管理運営費の削減を行う案として、YAC事務所を移転させ、東京都内に数多くある「インキュベータオフィス」を利用する。このインキュベータオフィスに移転すれば機器のリース代やメンテナン

ス代がかからず、共益費やインターネット整備等が家賃に含まれ大幅に削減することができる。

管理費（人件費）の削減には、経理事務作業をアウトソーシング（作業委託）することにより、職員給与・社会保険料（事業主負担）をなくし、委託料のみに削減することができる。このことから、関連する多額な経理ソフトのリース代、ソフト保守料、給与ソフトバージョンアップ等の費用も削減することが可能となる。

■事務局体制

平成24年度の事務局は、契約職員とボランティアでYAC事務局の活動を行ってきた。平成25年度は、管理費削減案によれば契約職員の減、ボランティアの減という状況でYAC事務局を賄わなければならない。

財団の必要最低限の業務として、①総務・財務、②団員管理業務、③連携団体との連携協力及び支援等、④webを通じた情報発信等がある。

①を外部委託にすることで、②～④を契約職員とボランティアという体制の下、引き続きこれらの業務を維持していく。

（2）財団事業の実施について

平成25年度は、事務局人員体制自体は縮小するものの、イベント事業を実施する際は、外部組織（企業等）の協力、連携団体であるYAC分団の協力を得るなどして実施する。また、公益目的事業の実施に要する参加費を適正な範囲で徴収する。

3. 事業計画

（1）宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業

【事業名】小惑星探査機「はやぶさ2」プロジェクトの応援（予定）

【計画内容】

2003年5月に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」は小惑星イトカワを詳細に観測し、その表面物質を持ち帰ることに成功した。2013年はこの「はやぶさ」の打上げから10年となる。本年度は、この「はやぶさ」の後継機として、次世代への夢と希望をつなぐ「はやぶさ2」に注目して、JAXAが行うキャンペーン等に団員やYAC分団、一般に積極的に働きかけをしてプロジェクトの応援を行う。2014年の打上げに向けて開発が進められている「はやぶさ2」について、多くの子ども達に小惑星探査への興味を持つような普及啓発プログラムを実施する。

【時期】平成25年4月～平成26年3月までの間にJAXAが行うキャンペーン等に参加（予定）

【対象】YAC団員及び一般

(2) 青少年の連携及び交流の促進事業

【事業名】 種子島スペースキャンプ (事業予算：5,000 (千円))

【計画内容】

子ども達の夏休みを利用し、ロケット打上げ射場のあるJAXA種子島宇宙センターや科学館の見学、ウミガメ放流やマングローブでのカヤック体験等、種子島の自然や歴史に触れる体験学習を行う。また、YAC種子島分団との交流やグループに分かれて地元民家に宿泊し、農業体験等も行う予定。

【時期】 平成25年8月5日～7日 (2泊3日)

【場所】 種子島全域 (中種子町、南種子町、種子島宇宙センター他)

【対象】 小学5年生～高校生のYAC団員及び一般

【参加人数】 40名

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共催】 日本宇宙少年団鹿児島地方本部 (予定)

【協力】 JAXA宇宙教育センター (予定)、YAC種子島分団 (予定)

【後援】 鹿児島県、南種子町、中種子町、西之表市、鹿児島県宇宙開発促進協議会 (予定)

【事業名】 つくばスペースキャンプ (事業予算：7,200 (千円))

【計画内容】

子ども達の夏休みを利用し、筑波宇宙センターの施設見学や宇宙飛行士訓練模擬体験 (閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練等) を通して宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」等を学習する。筑波山ろくの豊かな自然環境下、文化的要素に恵まれた施設を利用したキャンプ施設を利用し、夜は天体観測等を行い子ども同士の交流の促進を図る。

【時期】 夏休み3回、冬休み1回、春休み2回

《夏休み》

1回目：平成25年8月19日、20日 (1泊2日)

2回目：平成25年8月21日、22日 (1泊2日)

3回目：平成25年8月23日、24日 (1泊2日)

《冬休み》

1回目：日程調整中

《春休み》

1回目：日程調整中

2回目：日程調整中

【場所】 JAXA筑波宇宙センター、豊里ゆかりの森

【対象】 小学5年生～中学3年生のYAC団員及び一般

【参加人数】 各回40名、合計120名

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】 JAXA宇宙教育センター (予定)

【事業名】沖縄スペースキャンプ（事業予算：4,340（千円））

【計画内容】

子どもの夏休みを利用し、屋我知島（本島と橋でつながる周囲16キロの「沖縄の松島」と呼ばれる島）でマングローブ植樹体験を行う。将来再び訪れた際に植樹した位置がわかるようGPSシステムを用いて座標の記録をすることにより、GPSの活用を紹介することで宇宙技術を身近に感じてもらう。そのほか羽地内海でシーカヤック体験や地元沖縄のYAC名護分団と一緒にモデルロケットの打ち上げ体験を通じた交流活動を行う。また、美ら海水族館へ行き神秘的に満ちた沖縄の生き物たちの雄大な世界を体感する。

【時期】平成25年7月26日～28日（2泊3日）

【場所】沖縄県那覇市

【対象】小学5年生以上の団員とその保護者及び一般の親子

【参加人数】親子20組、40名

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】JAXA宇宙教育センター（予定）、美ら海水族館（予定）、YAC名護分団（予定）

【事業名】白熱宇宙道場（※NASAと調整中）（事業予算：1,000（千円））

【計画内容】

本事業は、宇宙関連の仕事を目指す日米の高校生を対象に宇宙に関わる仕事には様々な分野があり、それぞれの才能を活かしてチャレンジする可能性にあふれた魅力ある分野であることをNASA職員よりお話いただき、参加した学生による質疑応答、学生同士のディスカッションを英語で行う。日本人学生が宇宙開発に関連した専門用語を完全に理解することは難しいため、宇宙開発に多面的に関わってこられた専門家に協力頂く。これらの講義を通して、宇宙を仕事にする夢への“学びの場”“体験の場”そして“発見の場”を目指す。実施方法はインターネットを使った同時多地点への映像配信を行い、会場に参加した高校生に加えて、全国から会場の様子を視聴したり、コメントを送れる仕組みとする。

【時期】平成25年10月以降の毎月第1金曜日を想定

【場所】東京大学（アイソトープ総合センター）

【対象】YAC団員及び一般の高校生および大学生

【参加人数】日本人高校生＝20名

海外留学中の日本人大学生＝5名

アメリカ人高校生（大学生）＝5名

および、予め登録IDを発行されたネット参加者（高校生）

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団

【協賛】調整中

【後援】アメリカ大使館NASAアジア支部（予定）

【事業名】 水ロケット大会

【計画内容】

本年度は、YAC分団活動の共通プログラムとして位置付け、地域大会やブロック大会までの実施とし、全国から子ども達が集まる日本水ロケットコンテストは実施しない。この地域大会やブロック大会を行った活動の結果は、YACホームページに分団HPリンクを貼り、地域における水ロケット大会の様子がわかるようにする。

(3) 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業

【事業名】 ふれあいサマーキャンプへの講師派遣（事業予算：100（千円））

【計画内容】

ふれあいサマーキャンプは、豊かな自然環境の中で、宇宙を題材とした学習を親子で楽しく学ぶことによって科学に興味を持たせ、更に、貴重な体験を親子で共有し親子の絆や家族相互の交流を深めることを目的として毎年サマーキャンプを実施している。今年度も当財団より講師を派遣し、宇宙を題材とした講座を受け持ち、子ども達に宇宙および科学技術の楽しさに触れてもらうことによって本キャンプを通じた青少年の人材育成を目指す。

【時期】 平成25年8月17日～8月18日（1泊2日）

【場所】 枚方野外活動センター

【対象】 一般の子ども及び大人

【参加人数】 総勢100名

【主催】 関西宇宙イニシアティブ（KaSpI）

【後援】 JAXA（予定）

【協力】 枚方市教育委員会、京都大学、大阪府立大学、関西外国語大学、帝塚山学院大学、花山星空ネットワーク、関西学生星のネットワーク（予定）

(4) その他の事業

【事業名】 宇宙教育テレビ

【計画内容】

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、放送番組の内容をJAXA宇宙教育センターと一緒に計画し、その情報をインターネット番組で放送・配信します。番組にはYAC職員が司会者となり、宇宙及び科学技術の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に向けて、分かり易く紹介していきます。

【放送】

月に2回実施（第2、第4木曜日）19時30分～20時30分、ロケットの打上げなどがある月には、変更となる場合があります。

【事業名】 宇宙情報誌「宇宙（ソラ）のとびら」の発行・編集協力等

【計画内容】

青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進、そして本誌を利用した宇宙教育活動の推進を目的として宇宙情報誌の編集協力等行います。内容は、宇宙及び科学技術に関わる最新の情報や科学実験の紹介を子ども向けに紹介し、宇宙教育活動レポート（財団YACのイベントやYAC分団活動の記事掲載）、イベント情報等を掲載する情報誌の発行・編集協力を行う。

また、平成25年度より各月のテーマに合わせた教材が付録化されることになり、この制作監修にYAC関係者が関わり教材制作を行う。

【発行等】 発行・編集協力：公益財団法人日本宇宙少年団
編集会議にはYACより職員が参加
発行回数：年4回（6, 9, 12, 3月）

【事業名】 YACホームページの維持・管理

【計画内容】

青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進、そしてインターネットを利用した宇宙教育活動の推進を目的としてウェブページでの情報公開を行います。

① 公益財団法人日本宇宙少年団のウェブサイト

(<http://www.yac-j.or.jp>) 公益財団法人日本宇宙少年団の概要、沿革、団員募集、賛助会加入の企業・団体・個人など、業務・財務に関する資料、連絡先を掲載。

② 日本宇宙少年団団員活動コミュニティサイト (<http://www.yac-j.com>)

お知らせ、宇宙教育テレビ、メディアでの掲載記事、団員の活動予定、活動報告、活動ビデオ、イベント情報、教材研究を掲載。

③ スペース・キッズ・プラットフォームサイト

(<http://www.yac-skip.jp>) 公益財団法人日本宇宙少年団が、企業、団体との連携により展開する事業の紹介。募集告知を掲載。

【事業名】 日本宇宙少年団（YAC）分団との連携協力

【計画内容】

財団と分団間の連携協力の下、分団活動紹介のページを開設、団員管理システムによる団員情報の把握や承認等を行い、分団活動の状況把握等に努める。そして、当財団が計画する事業に対し、必要に応じて地域分団と連携協力を依頼する。

また、新規分団結成や活動内容に関するアドバイスをはじめ、当財団と連携し日本宇宙少年団全体の活性化に繋がる施策を実施する。また、必要に応じて分団個別の課題を解決するための施策を実施する。

連携団体として認定を受けたYAC分団の活動を推進するため、連携団体の全体会議の場として「連携団体長会議」を年1回開催し、YAC活動組織相互の情報交換等の場を設ける。